

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314



JR山陽本線里庄駅から徒歩10分、家居の建ち並ぶ  
古い街並みの中に建つ吸江分教会 (1月23日 撮影)

立教180年  
2月号



と思いますが、その喜び・感謝が、にをいがけ・おたすけの原動力になりません。

●育てる側の、育つ努力と育てる努力  
これから、ご本部では、「道の人材の育成」ということに重きをおいて進めていかれます。

もちろん、その後で、にをいがけ・おたすけする私たちは、今度は、そういう人——これから丹精していく人、また、若い人——を育てていかなければなりません。

そのためには、そういう人に、親神様のご守護・お働きを、いかに感じてもらおうかということが大切になってきます。

ただ自分が感じるだけではなく、育てていく上においても、そういう人たちにもどうすれば感じてもらうことができるかを、常に考えねば、育てていく元にはなつてきません。

そのために、一体、何をすべきかを改めて考え、そして、その一つひとつを確実に積み重ねていくことが大事です。

真柱様は、「120年祭よりも動いていたと感じる」と仰いましたが、「動け

ているところと動いていないところの差が広がってきた」とも仰いました。

その差は、確かにありましようが、年祭に向かって、皆が、一手一つに動いていくと考えると、皆、同じことをする必要はないにしても、同じ気持ちで動くことは大切で、一人ひとりが出来ることを思案せねばなりません。

真柱様は、「育てる側も育たなければならぬ」とも仰いました。

後継者講習会や教会長子弟育成のための取り組みなどがおちばで開催され、それを通して、おちばの方で育ててくださいますが、実際に育てていくのは、身近にいる私たちです。

そこが一番の角目であつて、私たちが、しっかりと育てていく努力をしなければ、次の塚に向かつての人材育成には、繋がってきません。

また、今年も、11月25日・26日と別席団参をしますが、それに向かつて、一人でも多くの人をおちばへ連れ帰れるように、にをいがけ・おたすけにつとめましよう。

新たな次の塚に向かつて、歩み出しの年として、

①信仰の元をもう一度、お互いに  
思案すること。

②日々、神様のご守護・お働きを感じることに。

③一人でも多くの人に、それを感  
じてもらえるように苦勞するこ  
と。

そういう一年にできれば有難い。

●潮流ではなく、信仰の原点を見よう

今の時代、より難しくなつてきているように思います。今まで「世界のリーダー」というイメージのアメリカでしたが、新しい大統領は「先ずアメリカが」。「アメリカのためのアメリカ」という考え方が濃いようです。

そうすると、中国のための中国、ロシアのためのロシアとなり、世界が、自国をよくする方向に動いている。そうして、世界は、より悪い方向に変わるかも知れません。

しかし、私たちの信仰は、変わつてはいけません。時代の逆風に流されなないように、信仰の原点を見つめ直していかなければなりません。

代を重ねても、お互いに初代の心意気で、改めて、今年から、勇んで歩み始めましよう。

《以上、要旨》

春季大祭講話

代を重ねた信仰道中に  
道の花を咲かせよう

大教会長様

立教180年大教会春季大祭は1月21日、大教会長様祭主のもと役員・部内教会長・布教所長・よふぼく・信者ら多数の参拝のもと執り行われた。

大教会長様は神殿講話で、教祖が現身を隠されてからの道の伸び栄えに話しを起こされ、次の塚に向かつて歩み出した私たちの心すべきことについてお話しくだされた。要旨は次の通り。

●をやの思いはどこにあるのか

春の大祭は、明治20年、一れつ子供の成人を促す上から、25年先の定命を縮めて教祖が御身を隠された、そのことをしっかりと思案すべく勤めます。

明治20年に掛けられたをやの思いは、一体、どこにあつたかという、私たちが一人ひとりの成人です。天保9年、教祖は月日のやしろとな



大教会長様ご講話

られ、陽気ぐらしに立て替わるためには、私たち一人ひとりがどう歩めばいいのかを、御自ら50年のひながたとしてお通りくださり、お遺しく下さいました。

教祖が生神様としてたすけられた人が次々と教祖のお側に集まり、また、教祖のお側で仕えるようになりました。しかし、心の成人という点では、まだ解っておらず、また、「教祖のひながた」についても、その本質はまだ見えてなかったと思います。

教祖が御身をもってたすけされたのでは、人々の成人が遅れてしまい、また、教祖に頼ってしまつて、銘々がひ

ながたを辿るところまでいかない。少しでも一日も早く、一人ひとりが成人し、ひながたを辿る成人を果たしてほしいという上から、25年先の定命をお縮めになりました。

常々、115歳定命と教えられ、教祖は必ず115歳まで元気でつとめてくださると信じていた当時の人々は、90歳で御身を隠されたので、「教祖が亡くなつた」と思い、大変な悲しみに暮れました。

しかし、おさしづを通して、亡くなつたのではなく、姿を隠しただけで、今まで通りにたすけ一条の先頭に立つて働かれると聞き、当時の人々は、ホッと胸を撫で下ろすと同時に、そこに籠められた、お姿を隠された思いを思案されて、「これからは、私たち一人ひとりが、教祖ひながたをしつかりと見つめ、それを辿つてこそ、陽気ぐらしの世界に立て替わる」ということが十分に分かった。それから、燎原に火を放つがごとくおたすけに東奔西走し、おたすけ人が増殖したからこそ、今日のお道の結構な姿が生まれてきました。

年祭が済んで次の塚に向かって歩む今こそ、お互いに、その点を、先ず、

しつかり心に置かねばなりません。

●初代の思いはどこにあったのか

私は、信仰5代目です。初代が通つた道を2代が、2代の跡を3代が、3代の跡を4代がという形で、私もこうして5代目を歩んでいます。

正直なところ、初代の思いがなかなか分かりにくく、先代がしていたから同じようにすればいいだろうという、形の上での信仰になつてしまつて、初代・2代が通られたその心の部分での信仰が、果たしてどこまで出来たかと思案すると、まだまだ足りなかったと思います。

昨年2月3日、私は、部内巡教先で、脳内出血で倒れてしまいました。

病院のベッドで気が付き、いろいろと考えました。体重を落として血糖値も血圧も下がり、薬も飲まなくてよくなつていたのに、どうして倒れるようなことになるのかと、いろいろと考え、悶々としました。

しかし、思案を重ねていく内に、血糖値も血圧も下がらないままの状態であつたら、ひよつとしたら、死んでいたかも知れないと考えてみると、「凄いご守護をいただいたのだ」とい

うことに思い至りました。

それから次々と考えてみると、倒れた場所も良かった。福山市一の脳外科・太田病院に一番近い教会で倒れました。もし、他の場所で倒れていたら、病院に行くまでに、相当、時間が掛かっていただろうし、これも凄いご守護をいただいている。

また、長男が本部の御用を終えて帰ってくる直前だったということを含めて、周りの気持ちもお道の方に心を切替えてくださったことを考えてみれば、これも素晴らしいご守護をいただいた。本当に、これほど有難いことはありません。

「ああ、神様のご守護つて有難い」と思うと同時に、初代の思いが、先ず、そこにあつたのかという気がしました。

●この道の信仰の目的

入信から道中へ

多くの方は、身上・事情のご守護をいただいで、この道を通るようになっていたと思いますが、笠岡の初代は、人が羨むような生活をしている中での信仰が始まりました。

私たちに「信仰していると結構に

なる」というイメージがあるし、親々からも「信仰していると結構になるよ」と聞いていますから、何かしら、「お道の信仰をしている以上は、結構になるのが当たり前」と、ついつい考えてしまいます。

しかし、初代の信仰は、結構になるどころか、信仰を進めていく中に、大阪で大きな経済恐慌があり商売も生活も立ち行かなくなりました。

しかし、そんな中でも、決して信仰心を失うどころか、もつと勢いを持っておたすけに掛かったのは、一体、何だったのか、その原動力は何だったのかと、病院のベッドの上で考えました。掘り下げれば、教祖ひながたの姿になるかも知れませんが、本人(初代)にしてみれば、そういう大きな事情が起こったときに、改めて、かしの・かきものということがしつかりと心に納まった。

それと同時に、家のいんねん——経済的なもの、家族がバラバラになるということ、すべて、(上原家の)いんねんというものがそこにある。自分だけではなく、子や孫にも、このいんねんを残しておくわけにはいかない、ここで切るためには、このひながたの道、

たすけ一条の道をしつかりと通るのが肝心だ。——それに気付いた。ということとは、やはり、守っていただいていると思います。

それからもう一つ、「親神様は、世界一れつをたすけたいとてこの道を始められた。教祖が、陽気ぐらいに立て替えてくださる。」ということがしつかりと納まつて、自分たちは、今、どんな状況だろうが、とにかく、その御用をできるという喜びを持って(初代は)歩まれたのではないかと思えます。

今の私たちは、どうしても「形の世界の結構」を求めますが、初代に続いた方々の心根は、「心の結構」にあった。どんな中でも結構、その喜び・感謝の心いっぱいに通れるこの道だからこそ「この道は結構だ」と仰った。そこに代々の信仰の原動力、おたすけの原動力があったのではないのでしょうか。

### ●信仰的内省を促して、育ち、育てる

ちょうど教祖130年祭の年に身上を見せられたということを考えてみても、次の塚・教祖140年祭に向かうお互い一人ひとりが、改めて、明治20年に籠められたをやるの思いをしつかり心に置い

て、もう一度、自分自身の信仰を見つめ直し、親神様・教祖にお喜びいただけるような、本当の結構を味わえるような信仰を、一歩、一歩、確実に進めていくことが大切ではないでしょうか。

おちばでは、教祖140年祭を目指しての人材育成ということをテーマに掲げて進めておられます。昨年の年祭直後から準備が始められ、今年からは、実際に、後継者講習会や教会長子弟育成プログラム関連の行事が本部で開催されます。

私たち自らがそれに参加し、そういうものを利用して、改めて、自分自身を見つめ直すと同時に、また、対象の講習会があれば、関わる皆さん方に、声掛けし、とにかく、一人でも多く参加してもらえるように、お互いにつとめ切りたい。

改めて、次の年祭に向かう今年から、「また一歩一歩始まるんだというもの」を、何か、常に持っていたきたい。

その、自分自身の信仰がきちんとなっていないと、伝えるべきものも伝わりません。

育成の中で、一番、基本になるのは、一人ひとりです。一人ひとりの信仰、

日々の行ないこそが、育てていく大きなものになるなら、自分自身の信仰がこれでいいのか、これでひながたを辿ることになるのかということ、改めてしつかりと思索しながらつとめることが肝心ではないでしょうか。

●身上・事情——道の花を咲かせよう  
今年に入ってから、また、ちよつと身上をいただき、右手の親指が突き指したような感じになりました。

寝ている間になったのか、全く記憶がありません。いろいろしてみたけれども良くならない。もうちよつとしたら病院に行こうかと思いましたが、これも「成ってくるのが天の理」、何か神様の思召があるのではと思索すると、「そう思索することが、正しく親神様の思召だ」と気付きました。

私たちは、何か身上になると、つい病院・薬となつてしましますが、身上には、何か神様の思召があるはず。す。

「思召しつて、一体、何だろう。」と思索すると、パツと閃きました。——「ああ、喜んで、ああ有難い。」だけではダメだ。「喜んだら、有難いなら、しつかり御恩報じせねばならん。」ということに気付きました。

「また、また、見せていただいても難うございます。これからは、喜ぶだけではなく、今度は、この喜びを、また一人でも多くの人に伝わるように、また、御恩報じができるように、これからしっかりと頑張ります。」と申し上げます、それ以降、痛みがなくなりました。

今、こうして、まだ有難く使っています。「ああ、正しく有難いなあ。」と思っています。

もう一度、お互いの信仰を見つめ直しましょう。

何かあったときに、直ぐに医者や薬などに頼るのではなく、もう一度、そこには「喜ばそう。たすけよう。」という何かしら親神様の大きな有難い温かい親心があるということ、日々、常に思案しましょう。

そして、自分だけではなく、今度は、次の塚に御用が出来て人を育てられるように、これからしっかりと歩んでいきましょう。

《以上、要旨》

「有志  
ひのきしん隊」実施

青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、12月7日と1月15日に、備中分教会で有志ひのきしんを実施した。

両日共に、8人の参加者で教会敷地内の木を伐採。寒空の下、チェーンソー



手際よく伐採作業



注意して大木伐採

を駆使して勇んでひのきしんに励んだ。伐採後の参道は、すっきりと明るくなった。

「テッチャン  
シアター」開催

1月月次祭後

少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)は、春季大祭後に「テッチャンシアター」を開催、育成会員約20人、少年会員約30人が参加した。

森本委員が祭典講話の中から話しを取り上げて教話をし、おちばへかえろ



話しに聞き入る少年会員

うと呼びかけてお下がりを配った。少年会では、本年も、大教会祭典日と休日が重なったときには、祭典後に、縦の伝道として、少年会員にお下がりを配り、お話や歌・ゲームをする予定。「家族揃って教会参拝」の一環として始まった企画で、担当する委員が、楽しんでもらえるように趣向を凝らしている。

# 親里管内学校の 受験生の世話取り

## 実施

教会長子弟育成委員会  
学生担当委員会

教会長子弟育成委員会(森本忠善委員長)と連携の下、2月5日から7日にかけて、親里管内学校の受験生の世話取りを行った。

今回は、天理高校、教校学園高校、天理大学の各校に、11人が受験。一行は、5日の午前中に大教会を出発し、



受験生にをてふりの指導

天理到着後、スタッフ(4人)と共に神殿参拝、各校の受験会場の下見に回った。詰所では、スタッフや天理大学生による学習指導や、面接等で聞かれる教理勉強指導などが行われた。また、実技試験の対象となる教校学園をてふりの指導や、学生会活動の案内も行われた。

不安もありましたが、ひとりではなく同じ立場の人達と一緒に受験出来たので、心強かったです。筆記試験の前晩には勉強を、実技試験の前晩にはおてふりを教えてもらったのも良かったです。高校に入学する前から友達も出来、この受験の合宿に参加して良かったです。

### ▼保護者の声

初めて子供がおちばの学校を受験するので、一緒に参加させて頂きました。担当者の先生方の手厚いお世話取りのおかげで、何もわからず不安でしたが無事に受験させて頂くことが出来ました。ありがとうございます。

### 松の剪定・藤の木撤去

#### ひのきしん

管理部

管理部(武内清明部長)は、2月6日から8日にかけて大教会中庭の藤の木撤去、松の剪定並びにモクセイ植え込みを延べ15人で行った。6日は、大勢の人手によって鉄管に絡まったつるを、バネ鋸や鋸で小まめに切り除き撤去した。また、6日、7日は2年間、

▼参加した学生の声  
おちばの学校を受験するのにすごく



試験前夜の猛勉強



住宅前モクセイ植え込み



大教会中庭の松の剪定

忘れていた松の剪定を行い、ひのきしんの手によって日の目を浴びた様に生き生きとその雄姿を現した。8日は、早朝より霜の降りた寒い中を、住宅前の欠損した生垣のモクセイを重機で原型通りに復元する事もできた。

# 談話室



## 教祖年祭前後に見せられた 数々の不思議

笠岡大教会 谷 本 篤 子

平成10年8月7日、卵巣摘出手術を受けました。神様に身体をお守り頂いて命が繋がりました。約20年経ちました。

長年、股関節の調子が悪く、一昨年の3月に歩き難くなりました。翌月の誕生祭に参拝しようと思っていると、不思議にも、倉敷の川崎病院の先生が、わざわざ笠岡まで出向いて手術して下さる事になり、翌5月に右側を、左側の手術が9月に決まりました。

毎年10月に受けていた乳癌の定期検診を、この年は、何故か8月に受ける、と、再検査の通知書が届きましたが、先(9月)に股関節の手術を受けました。翌月、乳癌検診の再検査を受けると、乳腺の先生から「触診だけで、良くて、こんな小さな癌を見つけてもらえたなあ。」と癌宣告を受け、11月に手術日が決まりました。

乳癌の手術に向けて入院準備をして

いると、緊急で呼び出され、信じられない事を告げられました。「肝臓に10cm大の正体不明の癌があります。リンパにも3ヶ所所有するようです。」と。

これは、手術前に撮ったCT検査の結果で判ったことですが、乳腺の先生は「小さな癌には、通常、CT検査しません。どうしてもそんな指示を出したのか、自分でも分からない」と言われました。

思い返すと、3月以降の一連の出来事が、偶然だと思っていた事が、全て必然(親神様の御配慮)だったと感じるようになりました。

取り敢えず、乳癌の手術を受けましたが、術後、乳腺の先生は「癌とは仲良しこよしで過ごして行こう。」と適切なアドバイスを下さいました。

その後、肝臓の癌の原発(最初に発生した場所)が何処かなどを探る様々な検査をして、やっと18年前の卵巣癌の再発だと分かりました。人間の身体は不思議です。卵巣癌の再発とはもう言わない時期に先生方も首を傾げられました。

長い年月、生かして頂け、働かせて頂け、子供たちの成長を見守らせて頂けてきた事に改めて深謝致しました。

それから抗癌剤治療が始まり、非常に重篤なアレルギー症状を起こしましたが、腫瘍科の先生の落ち込みは私以上でした。そんな事が起こったからこそ、腫瘍科の先生の強い思いが伝わってきました。信頼出来る先生とまた出会えた事に感謝しました。

18年前、抗癌剤治療をして下さった先生は「点滴の針を患者の血管に刺す時、医師は『どうか効く様に』と祈るしかない。」と言われました。今回の治療を受ける上での指針となる言葉だと思いい、腫瘍科の先生にその言葉をお伝えすると、「分からない事や不安な事は何時でも聞いて下さい。」と言って下さいました。

自分の身体であつて自分の思い通りにならないことは、過去に沢山経験して身に染みて分かっていますし、先を案じても自分の思う様にならないことも「心」におさまりました。

そうして有りのままを認め、受け入れて心が落ち着いたからなのか、その後の治療は順調に進み、副作用も少なく、癌も見えないぐらいに小さくなりました。

CA125(卵巣癌の腫瘍マーカー)の値も、昨年頭には3千近くあつたものが、

教祖年祭直後には450まで下がり、4月には基準値の35を切りました。腫瘍科の先生も、もう抗癌剤治療は不要だと言われます。

乳癌が卵巣癌を見つけてくれる不思議が有り、抗癌剤治療を受けただけで、奇跡の回復をしています。

神様に、今までずっとお守り頂いておりました。先生との出会いに感謝です。「ありがとうございます」と言う言葉しかありません。

過ぐる2年間のこうした種々な身上お手入れと、目まぐるしいほどの入院と検査・治療の数々は、他の方には辛く悲しい日々と思われるかも知れませんが、私は神様に可愛がられて来たと思える様になりました。

まだ「完治」では有りませんが、先日の検査でもCA125が基準値を超えませんでした。CA125の値に一喜一憂する私に、理の親は、「自然ににをいがかけられる人になって下さい」と良くお話し下さいます。これからの私の日々の生活での重要なポイントだと思えます。

人間というものは、身ばかりのもの、心一つが我がのもの。たった一つの心より、どんな理も日々出る。

(明22・2・14)

## 春季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には人間の陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召から 道具を寄せ人間の種を作り 守護を教え八千八度の生まれ変わりを経て人間へとお育て下されたばかりでなく 陽気ぐらしが出来ると守護下さって下さるす 加えて天保九年教祖を月日の社としてこの世の表へ現れ 親心とこの世の真実を明かされ陽気ぐらしへとお導き下さってまいります事は誠に有難く嬉しい限りでございます

私共は親心にお応えすべく 日々は御礼感謝の心一杯に御恩報じを念じて 陽気ぐらしへの唯一の道であるたすけ一条の道をひたすらに歩ませて頂いております

その中にも今月二十六日は教祖が私達一人一人の成人を促す上から姿をお隠しになり 世界ろくぢに踏み均しに出られた尊い日に当たり おちばで春の大祭がつとめられますので その理を頂戴し当大教会に於きましても 只今からおつとめ奉仕人一同感謝とたすけ心一杯に坐りづとめてをどりをつとめて春の大祭を執り行わせて頂きます 御前には遠近を問わず寒さを厭わず寄り集いました 理に繋がる子供達が 同じ思いに伏し 拝み 尚も変わらぬ親心にお縋りする 皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて立教百八十年の始めに当たり直轄教会に大祭参拝をさせて頂きました 次の塚教祖百四十年祭に向けての歩み出しの年として 親々の信仰を温ね改めて自分の信仰を見つめ直し 一步一步確実に成人の道を歩み 真実を積み重ねてゆく事を誓い合わせて頂きました 今世界のリーダーたるアメリカも大統領が替わり 時代は大きく変わろうとしています 良き方向なのかそうでないのか分かりませんが 親心が変わらないように私達も本物の信仰者目指して成人の歩みを進めて行きたいと思っております

何卒親神様には 変わらぬが誠と親孝心一筋にたすけ一条に邁進する 皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上により自由の御守護を賜り たすけ一条の喜びに満ち溢れ 万互いに助け合う陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 輝美濃分教会で 四代会長就任奉告祭 執行

輝美濃分教会(谷内秀自会長)は昨年12月4日、大教会長様ご夫婦を迎え、4代会長就任奉告祭を執り行った。



▼表紙写真

(吸江分教会提供)

\*A\*B\*C\* **英会話を学びませんか？** \*X\*Y\*Z\*



\* 笠岡大教会 海外部では \*  
\*\* 英語に興味のある方 \*\*  
\*\*\* 海外を目指したい方 \*\*\*  
\*\*\*\* 海外伝道に興味のある方 \*\*\*\* を対象に

**英会話教室 (かさおかイングリッシュクラブ)**

を開催しています

\*\*\*\*\* 興味のある方 ご参加ください \*\*\*\*\*

- 内 容 : 英語のシチュエーション会話
  - 1. ベーシック英会話 (基本コース)
  - 2. スキルアップ英会話 (進歩コース)
- 日 時 : 毎月22日午後7時～8時30分
- 会 場 : 大教会談話室
- 会 費 : 500円 (コーヒーお菓子も出ます)

\* 3月、11月の広島平和公園英文パンフレット配布にも参加します。  
海外部 (大教会・上原志郎) へ電話ください。



\*\*\*\*\*

海外部より  
**広島平和公園英文パンフレット配布にをいがけ**  
のお知らせ

どなたでも興味のある方参加できます。  
海外へ出て布教するのも世界ですし、  
日本に来ている海外からの旅行者に  
にをいがけするのも世界だけ  
の一端です。



- 日 時 : 3月23日 (木)  
8時30分 大教会集合、参拝、出発  
4時頃 帰会、参拝、解散
- 参加御供 : 500円

立教百八十年 春季大祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	役割			講話	祭主		扨者	
											区分	地方	役割		大教会長様	中村剛	上原明勇	三月講話
今川佐智子	上原順子	佐藤香苗	今川昌彦	笹尾正治	森本忠平	岡崎真一	吉岡壽	杉原博之	虫明好美	門脇郁子	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	佐藤道孝	大教会長様	中村剛	上原明勇
谷内美知子	森本富美子	笹尾一美	赤木素志	高木昭祥	横山逸郎	吉岡誠一郎	虫明立生	内海史郎	岡崎豊子	内海安子	武内正美	山野弘実	上原浩	中村剛	中村邦義	三月講話	山野弘実	吉岡誠一郎
室悦子	高木孝子	横山小智榮	佐藤真孝	浅野明教	田林久嗣	武内清明	森本忠善	上原繁次	岡崎和美	中村初美	門脇加津	中村道徳	岡崎真一	門脇元教	田中隆之	学生層育成者講習会	山野弘実	吉岡誠一郎

大教会だより

◎教人講習会修了者

前期 立教180年1月31日終講  
 稲瀬 前原 英子  
 中期 立教180年2月5日終講  
 芦常 澤田 貴美恵

※記事の訂正

本年1月21日発行の『かさおか 第56巻第1号』10ページ「◎立教180年 春季大祭参拝」の記事中、上から3段目前から10行目「笠晴・田中隆之」を「笠晴・吉岡壽」に訂正します。

計報

田中幹夫氏

清嶽分教会長  
 1月20日出直されました。  
 享年 88才



以前に聞いた事のある禅僧の良寛さ

んの「それはお前に丁度良い」という詩にある時再び目にする事がありました。少し触れてみると、「お前はお前で丁度良い。顔も体も名前も姓も、それはお前に丁度良い。(中略)幸も不幸も喜びも、悲しみさえも丁度良い。歩いたお前の人生は、悪くもなければ良くもないお前にとって丁度良い。地獄へ行こうと極楽へ行こうと、行ったところが丁度良い。(中略)お前にそれは丁度良い。」

私たちがすべての人間は親神様に守られ生かされています。今現在を喜ぶも不足するもそれは自然に感じるもの、今の自分に必要な今の思いと改めて気づかされる時、自分の心の有りがたが今どこにあるのかを確認する事ができます。不足を借金とする人生であるならば、この先の人生はたくさん貯金のできる喜びいっぱい的人生を周りの多くの人たちと一緒に過ごしていきたいと考えます。今を感謝でき、今を幸せと思えるその時からが親神様への御恩報じの心に気づく第一歩かな?とも思います。自分を活かしたおたすけに繋がる一年になる様振り向かず前を向いて喜び感謝の心を持って歩いてゆこうと思っております。(む)

短時間、あるいは時には長時間にわたって寝泊まりをし、あるいは足腰を伸ばし、その教会にかかわる人が、その教会の詰所、母屋と称する建物に出入りするのです。

言い換えたならば、この建物は、笠岡にかかわる皆さん方が出入りしてくださる建物なのであります。そしてただ単に出入りするだけでなく、こゝへ出入りすることによって、少しでも親心に近づかせて頂けるような心へと成人して頂くための、一つの場場なければならぬ。だから、折角、自分たちの丹精によって建て上げた建物が、ただ建て上げたんだというので、俺たちの役目は、それで終わつたと考えるのも、ひとつの考え方なら、折角、みんなが真実を集めて建て上げたこの建物は、更にまた、みんなが心をひとつに揃えて、みんなの真実によって、その建物の意味にふさわしく、これからこれを使っていくんだ、という気持ちを新たに心に持つて頂きたいのが、私の今日、皆さん方に希望したいことなんです。

それには、今申しましたように、皆さん方は、一方では一人でも多くの人たちを連れて帰らせてもらおうということを、自分が帰ることと併せて、常に心に持つて頂きたい。自分が帰らせてもらおうということ、併せて一人でも多くの人たちを、その機会に連れて帰るということに、更に努力を払って頂きたい。その上更に、連れて帰つたからというて、仕事が終わつたのではなくて、やはり一度は一度、二度、三度と、度を重ねる度ごとに、その人もまた、新しい人を連れて帰らせてもらいましょうというような心へと進んでいくように、やはり丹精をしなければならぬ。これも皆さん方の心にかけておってほしいことなんです。

一つには、一人でも多くの人たちを連れて帰る。そしてその人たちを、一つには育てるといふこと。この二つのことを、皆さん方が一人の人でやらなければならぬ。これが、私は、

教会長であり、布教師であり、よふぼくの、親神様に応えるところの与えられた勤めであると考へて頂きたいのです。そして、その時に、教祖ならば、どういう心を持つて、こういう時には進められるだろうかということ、常に念頭において頂いて、事を考へて頂くならば、改めて、これからどうしてこの建物を運営していくかと、難しい会議を開かなくて、自然のうちに、この建物は、建物にふさわしい機能を發揮していくと、私は信ずるのであります。どうぞ、皆さん方の真実で、折角建物を建てたのであります。更にこの上は、皆さん方の真実で、立派に、この建てた建物を、おちばへ帰つて来た人たちが成人する上に、有意義に使うて頂きたい。そして、それが、親神様にお喜び頂く皆さん方の応える道だと、私は考へるのであります。

本日、この第一期工事がめでたく竣工しました佳き日に、お目にかかりました機会に、私の気持ちをとりまとめて率直にお話し申して、参考に供し、御挨拶に代えさせて頂く次第であります。おめでとうございます。

(文責者 上原郁雄)

7. 26 驛家分教会神殿屋根葺替及附属建物増改築  
遷座祭：九月十日  
鎮座祭：十月七日  
奉告祭：十月八日

7. 26 神驛分教会親神様・教祖・祖霊様お社取替及教祖・祖霊様神床位置変更、神殿屋根葺替並増改築  
遷座祭：九月六日  
鎮座祭：十二月三日